

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 211 号	2019年2月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	--------------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

—2月3日（日）会員15名が参加し、ため池内の除草、観察路に仮置きされていた除去草の処理の作業を実施しました。作業の後、以下の事項について話し合いを行いました。

- ・4月の日程（統一地方選挙のためふれあいセンターを使用できない日がある）の変更
 - ・来年度の会長については、会長候補として原田事務局が立候補する
 - ・総会は、3月31日に行う（監査は3月16日）
 - ・親子自然観察隊決隊式は現地集合も考慮する
- 雨の中、作業された会員の皆様、お疲れさまでした。

—2月16日（土）会員11名が参加し、ため池内の除草、ため池内のスイレン間引き、観察路に仮置きされていた除去草の処理、椎茸菌の駒打ちおよび原木の設置の作業を実施しました。また作業前の話し合いで以下の事項が決定しました。

- ・4月7日を活動日とする（総会が3月となり4月の行事が観察隊のみとなった為）

2. 今後の予定（事務局 記）

◎来訪者

予定はありません。

◎行 事

- 3月3日（日）維持活動 エコアップ、修復作業
- 3月16日（土）維持活動 修復作業 椎茸体験作業菌打ち
- 3月16日（土）午後、会計監査
- 3月31日（日）平成31年度総会

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声 「厚東川異変」 （ 原田満洲夫 記 ）

毎冬二俣瀬の由来となった中島跡の、浚渫したくぼみから上流の二俣瀬橋の間は冬鳥で賑わっている。今回は昨年暮れから、カルガモが2、3回群をなしていたがそれ以降全く姿を見せない。昨年度は、カモ類のカルガモ・マガモ・川アイサ・ヒドリガモと毎日見かけていたがどうしたものか？

小魚を獲る川鵜が朝早く群れで着水するが餌が少ないのであろう、早々に北の方に向かって飛び立っていく。白い小サギも1羽が寂しくずっと川面を覗きこんでいるが、獲物を獲った動きはない。冬場の厚東川は少ない水を黙々と流して寂しい限りである。

最近2月に入り二俣瀬小学校下あたりの水中に水棲の動物を見たとの情報が何件か入ってきた。二俣瀬橋上の甲山川との合流点に底深い水たまりが有り、ここでたくさんその動物を見たとの情報を聞き及ぶに至った。早速カメラを持参し調査したところ写真には取れなかったが確かに確認できた。何と外来種のヌートリアである。2年前一度それらしい動物を見たが大きなイタチかヌートリアか判明出来なかった。まさか獺(かわうそ)では？そのまま半信半疑で2年くらい経過した。

ヌートリアを百科事典で調べると草食性でミズゴケも餌となっているとか、昨年暮れに現れたカルガモの群れも何度か来て餌となるミズゴケ類をヌートリアが先に食し、量が少ない為ここでは冬は越せないと思って他の場所に移動せざるを得なかったのだろうか。

そばを通学する学童はこの異変を大変なことと感じているのだろうか？

カモが来て 見守り児への 自慢話

5. 会よりの連絡事項

1、総会の日程変更

今年は県議員選挙の為、4月初めは例年の総会が出来ませんので、3月31日(日)

9時二俣瀬ふれあいセンターにて開催されます。万障繰り合わせての参加をお願いいたします。これに伴う会計監査は3月16日(土)活動日の作業終了後に行います。

2、原田会長ご逝去による会長職は田村副会長にて業務引続きをしていただいております。

6. 編集後記 （ 若林 正治 記 ）

平成も終わるこの年に、原田賢治会長がご逝去されました。ビオトープや地区の活動では大変お世話になりました。心からご冥福お祈りいたします。そして新たな年号と共に新会長を迎えることになるビオトープの活動ですが、新しい事にチャレンジするより今まで行って来た事を少しでも長く続ける事が大事なのでは無いかと思います。